



Vol.1 温湯消毒&脱水編

2019.04.08

今年は大変寒い日が続き、4月に入って季節外れの雪も見られる中、今年の育苗作業が始まりました。播種ハウス周辺の草刈りや育苗センターの点検など、播種前の下準備から始めます。

温湯消毒～浸種



最初に種子を60℃のお湯に10分間、水に5分浸けて**温湯消毒**をします。『**温湯消毒**』とは、農薬を使わずにお湯で殺菌する方法です。農薬を使った時と同様の効果が得られるので、滋賀県の環境こだわり米の普及とともに、水稻種子の**温湯消毒**の取り組みが広がっています。

温湯消毒のメリット

- ① 種子消毒の農薬を使わないので米の減農薬栽培ができる！
- ② 農薬の廃液が出ないので廃液の処理が要らない！
- ③ 農薬を使うよりも経済的！

自然にも生産者さんにも優しい技術でいいことばかりです。

温湯消毒後は、種子を水に浸けます。この作業は『**浸種**』といい、10℃～13℃の水槽に1週間から10日間浸けておきます。種子は見た目では違いが分からないため、袋には品種が間違わないように『**日本晴**』の品種ラベルを付けてしっかり管理します！



催芽～脱水

播種が終わると次は**芽出し**『**催芽**』をします。催芽は芽を出しすぎると播種機に詰まったり芽が切れたりする原因となるので、休日や夜間にも担当者が育苗センターに来て種子の状態を確認しています。大変ですが、種子の管理はとても大切です！

催芽した種子の入った袋を**遠心脱水機**でしっかり『**脱水**』します。地味ですがこれも大切な作業です！水気をしっかり切らないと、播種の際に播きムラや機械故障の原因となります！種子も機械も優しく扱いながら作業を進めています。